

令21年3/4

下野

日

月

年

月

日

曜

午前

午後

夜

深夜

未明

午前

午後

夜

深夜

福祉との連携で課題解決

飼い主が多数の犬や猫を抱え過ぎて適正に飼育できなくなる「多頭飼育崩壊」。解決には飼い主への支援が必要なケースが多く、福祉との連携が鍵とされる。高根沢町は先月、生活困窮者自立支援法に基づき、猫約30匹と暮らす町内在住の会社員男性(50)の支援に乗り出した。県内では珍しい取り組みだ。動物愛護団体などと連携し、自宅の環境改善や生活の立て直しを図ろうとしている。(小林睦美)

追い付かなくなり、「どうすることもできなくなってしまった」と明かす。

民生委員からの相談を受け、町健康福祉課が調査を始めたのは昨年12月。庁舎内他部署や町社会福祉協議会、動物愛護団体、地元企業などと連携し、猫の頭数削減や自宅清掃などの支援に当たることを決めた。

先月中旬には動物愛護団体のメンバーら約10人が猫の保護活動を実施。男性の立派なが、大丈夫だよ」と何度も繰り返していた。同課は、今後、男性の思ひを尊重しながら、医療機関への受診や障害福祉サービスの利用も検討していく」と話している。

深刻な「多頭飼育崩壊」



猫のふん尿が広がり、荒れ果てた男性の自宅内=高根沢町

高根沢町、珍しい取り組み

孤立した飼い主を支援

環境省は、福祉と連携した多頭飼育対策を進め、実際に活用できる自治体向けのガイドラインを2022年3月までに策定する方針だ。

多頭飼育崩壊になると、悪臭や騒音などで周辺の生息環境が悪化し、不衛生な環境での飼育が動物虐待にもつながるほか、飼い主の健康にも悪影響を及ぼす。飼育に関する苦情は計2064件。多くは大猫で、頭数は「2頭以上10頭未満」51%、「10頭以上30頭未満」27%だった。

18年度に寄せられた多頭飼育に関する苦情は計2064件。多くは大猫で、頭数は「2頭以上10頭未満」51%、「10頭以上30頭未満」27%だった。

木造平屋の室内。散乱し

た新聞紙の上に、猫のふん尿が広がっていた。男性は10年前に母親を亡くしてから、猫が繁殖したほか、常習的に猫を捨てられ、頭数が膨らんでいった。

「猫が死んではかわい

い」と、收入の大半を餌代に充て、自らもキヤットフードを食べた。やがて掃除が

「天丈夫、大丈夫だよ」と何度も繰り返していた。同課は、今後、男性の思ひを尊重しながら、医療機関への受診や障害福祉サービスの利用も検討していく」と話している。

内田夏子係長は「本人

が単身世帯。53%が経済的に困窮していた。認知症や精神疾患、知的障害などが多かった。

ガイドラインの策定に当たり、同省動物愛護管理室は「社会的に孤立した飼い

主に寄り添い、支援していく必要がある。動物愛護管

理部局と社会福祉分野が連携して対応できるよう、ヒアリングなどで事例を収集

していっている」としている。

四を残し、残る全頭は団体が引き取つて新しい飼い主を探すという。男性は「猫が連れて行かれて本當にありがたい」と何度もうなづいた。

同課は、今後、男性が苦しくなって限界。助けてもうつむきながら「でも、生活が苦しくなって限界。助けられて本當にありがたい」と何度もうなづいた。

内田夏子係長は「本人の思いを尊重しながら、地域の見守りも強化する考えだ。同課の

内田夏子係長